

令和 8 年第 3 回太良町議会
(定例会第 3 回)

一 般 質 問 通 告 書

太 良 町 議 会

受付 月日	受付 番号	通告者氏名	質 問 事 項 要 旨	答弁者
8. 17	1	山口 一生	1. 高齢者の在宅支援と見守りの体制について 介護保険料を長年納めてきた町民から、「いざ介護が必要になっても、家まで来てくれる人がいない」という声を聞くようになった。在宅の暮らしを支える体制と、町の側から気づく仕組みについて、以下の点を伺う。 (1) 訪問介護をはじめとする在宅生活支援の供給の実態について、事業者数、従事者の人数と年齢構成、人手不足のために受けきれなかった依頼の有無についてはどうか。 (2) 事業所の撤廃や欠員によって、現に利用している方のサービスが途切れる事態に、町はどのように備えているか。 (3) 相談や申請がないまま埋もれてしまう方を、町の側から把握する仕組みの現状はどうなっているか。また、地域包括支援センターや民生委員等の現在の体制はどうなっているか。	町 長
			2. 生活支援の担い手確保と次期高齢者福祉計画について 現在の高齢者福祉計画は、今年度で期間を終える。生活支援の担い手をどう確保していくか、その入口づくりと次期計画への位置づけについて、以下の点を伺う。 (1) 第5次総合計画が掲げる「福祉の総合相談窓口の設置数」（2023年度に1箇所）と「住民主体の生活支援活動者数」（同年度に50人）について、現在の状況はどうなっているか。 (2) この福祉の総合相談窓口を、暮らしの困りごとをまず一か所で受け止め、適切な担い手へつなぐ共通の入口として機能させる考えはあるか。 (3) 住民が短い時間からでも有償で、安心して支援を担える仕組みを、本町として設計する考えはあるか。 (4) 本町の在宅支援の実態と担い手確保の道筋を、令和9年度から始まる次の太良町高齢者福祉計画にどう位置づけ、令和9年度の予算と人員体制にどう反映する考えか。	町 長
8. 18	2	待永るい子	1. ゴミの減量化とリサイクルの推進について 私達が日々生活を営む以上、ゴミの発生は避けられない。ゴミに関しては、少しずつではあるが、リサイクルの動きが広がり、地球環境を良くしていくための1つの方法として定着している。 そこで、現状の課題整理と、今後の具体的施策について問う。 (1) 町内のゴミの分別の種類はどうなっているのか。 (2) 町内のゴミ収集のサイクルはどうなっているのか。 (3) 過去3年間のゴミの量はどうか。 (4) ゴミに関する課題と対策についてどのように考えているのか。	町 長

受付 月日	受付 番号	通告者氏名	質 問 事 項 要 旨	答弁者
8.18	2	待永るい子	2. ガン検診と特定健診の現状と課題について 病気に関しては、早期発見・早期治療が生存率を向上させるといわれており、検診の受診率向上は重要な課題である。日本人の死因のトップはガンで3人に1人という時もあった。また、佐賀県はガン死亡率ワースト2位、特に肝臓ガンが多いと発表されている。 そこで本町の現状と課題、今後の対策について問う。 (1) 過去3年間の町内のガン検診と特定健診の受診率はどうなっているのか。 (2) 過去3年間の町内で死亡原因の多いガンは何か。 (3) 受診率向上のための課題と対策についてどのように考えているのか。	町 長
8.20	3	竹下 泰信	1. 本町での野生イノシシの豚熱の感染確認及び感染防止対策について 佐賀県は8月5日、太良町において7月25日、27日に捕獲された野生イノシシ2頭が豚熱（CSF）に感染していたことを公表した。 本町での感染確認は初めてで、県生産者支援課によると2頭いずれも成獣で、早垣地区でわなにより捕獲されたとのことである。検査により8月4日に陽性が判明している。また、8月12日には端月地区で捕獲された野生イノシシ成獣1頭が豚熱に感染していることが確認されている。 そこで、以下のとおり質問する。 (1) 佐賀県と本町の直近と、その5年前の養豚農家数と飼養頭数はどのようになっているのか。 (2) 県内及び町内の野生イノシシに対する豚熱への感染確認検査の状況はどうなっているのか。 (3) 有害鳥獣の捕獲従事者や町民への周知は、どのようにされているのか。 (4) 養豚農家への周知と豚熱ウイルスの拡散防止対策は、どのように行われているのか。 (5) 養豚場や圃場等で、感染が疑われる豚やイノシシが見つかった場合の連絡経路はどうなっているのか。	町 長

受付 月日	受付 番号	通告者氏名	質 問 事 項 要 旨	答弁者
8. 20	4	大鋸 美里	1. 障害児及び発達に特性のある児童への支援について 少子化により子どもの数が減少する一方、障害のある児童や、発達・行動・情緒面などに支援を必要とする児童への対応の重要性が高まっている。 子どもの困りごとを家庭や一つの機関だけで抱えるのではなく、町全体で現状を把握し、保健・福祉・教育・医療、そして地域が連携し、平時から災害時まで子どもの育ちと暮らしを支えることが重要であると考えます。 そこで、町における現状と今後の支援体制について問う。 (1) 町内における障害児及び発達・行動・情緒面などに支援を必要とする児童について、過去5年間の推移はどのような状況か。 (2) 保育所、認定こども園、学校及び障害児通所支援事業所等において、支援を必要とする児童への対応や人材確保について、どのような課題があると認識しているか。 (3) 発達や情緒面の課題から医療機関につながる児童について、受診、薬物療法、入退院等の状況を町としてどの程度把握しているか。また、医療・保健・福祉・教育の連携はどのように行われているか。 (4) 災害時において、障害や発達特性、医療的ケア、情緒面などに配慮を必要とする児童とその家族をどのように把握し、避難や避難生活を支援する体制となっているか。 (5) 町全体で子どもを育む体制について、現状での課題はあるのか。	町 長
8. 21	5	峰 正雄	1. 中山間地域の町道、農道の雑木伐採や草払い等について 太良町の中山間地域では高齢化や後継者担い手不足で集落の存亡の危機である。生活道路である町道に加え、営農に不可欠な農道の荒廃が進んでいる箇所があり、住民生活、農作業等にも影響が出ている現状である。 今後一層深刻化することが懸念されているので、以下について問う。 (1) 雑木の伐採等の要望書に対する進捗は怎么样了。 (2) 町で伐採重機の貸し出しは考えていないか。 (3) 農道伐採を業者に依頼した場合、予算面で支援はあるのか。	町 長